

中学校 技術・家庭科 第 25 回
全国中学生創造ものづくり
教育フェア in かながわ

募集要項

2025 年 11 月 1 日(土)
湘 南 工 科 大 学

- | | |
|------|--|
| ●主 催 | 神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会 |
| ●後 援 | 神奈川県教育委員会
神奈川県公立中学校長会
神奈川県公立中学校教育研究会
神奈川県中学校文化連盟 |
| ●協 賛 | 学校法人 湘南工科大学 湘南工科大学附属高等学校
株式会社 テクノ教育
株式会社 相場教材センター
有限会社 中村教育システム
有限会社 美 工 社 |

関東大会・全国大会の期日・会場について

●関東甲信越地区大会・千葉大会

2025 年(令和 7 年) 12 月 6 日(土)・12 月 7 日(日)

柏市立柏中学校 ☎277-0843 千葉県柏市明原四丁目 1 番 1 号

●全国大会

2026 年(令和 8 年) 1 月 25 日(日)・1 月 31 日(土)・2 月 1 日(日)

東京都立六郷工科高等学校 / 女子栄養大学 / 湘南工科大学

※「体験コーナー」, 「教材・器具等の紹介」は開催しません。

※最新の情報は全日中技家研 HP のほか, 県技家研合同委員会でもお知らせいたします。

I 開催の趣旨

21 世紀に入り、世界では IT（情報技術）革命、宇宙科学の進歩、地球環境の改善など、新たな科学技術が日進月歩で開発されている。これに伴い、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す「知識基盤社会」の時代になっている。そんななか、我が国の科学技術・製造技術は、世界に誇れる技術力（ものづくりの力）を持ち続けてきた。

しかしながら、我が国の若者達は、「科学技術離れ」、「ものづくりの体験の不足」や、「身の回りにおけるものづくり環境の減少」が顕著であり、これらが教育的な課題になっている。これらの課題を早急に解決していかなければ、21 世紀の世界の激しい技術開発競争に、我が国は勝ち残っていくことができなくなってしまうのではないだろうか。

このようななか、1999 年(平成 11 年)に「ものづくり基盤技術振興基本法」が法案化され、基本計画が制定された。この基本計画は、我が国がもっている本来の技術力をより一層高め、高度な技術者を育成する「ものづくり教育」の充実・発展を進める具体的な施策である。このことにより、「ものづくりに関する学習」が企業をはじめ、大学、高等専門学校、小中学校で進められることになったが、「ものづくり教育」を学校教育の学習体系として進めている教科は、義務教育においては中学校における技術・家庭科だけである。

私ども神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会（以下、県技家研）は、教科発足以来約 50 年間、その時代の社会の変化に適応する人材育成のために、「ものづくり 人づくり 国づくり」を教育の理念として実践を進めてきた。「ものづくり」の実践的・体験的な学習を通し、進んで生活を工夫し創造する能力と、創造性を発揮し生活の自立を図り、持続可能な社会を構築できる「人づくり」に取り組んできているところである。まさに、この教科教育の理念や具体的な実践は、世界に通用する日本人の基礎的な資質(国づくり)を育成する教育であり、ものづくり基本法に則った「ものづくり学習」だと受け止めている。

そこで、県技家研(略)では、中学校の技術・家庭科において「ものづくり学習」を実践してきた生徒達の教育的成果を発表し、本教科の「ものづくり 人づくり 国づくり」の教育理念を県民の皆様や一人でも多くの小中学生に御理解いただくとともに、これからの「ものづくり教育」の発展・充実のために、神奈川県公立中学校教育研究会、神奈川県中学校文化連盟からの後援を受け、次のような目的をもった“全国中学生創造ものづくり教育フェア in かながわ”を開催するものである。

- 1 中学生が知識や道具を駆使して、様々な条件のもとで最適解を見付け、進んで生活を工夫し創造することを学んだ、技術・家庭科の実践発表の場とする。
- 2 未来への飛躍を実現する人材を育成するために、多様な体験と切磋琢磨の機会を増大し、学習意欲やものづくりへの製作（制作）意欲の向上を図る。
- 3 優れた能力と多様な個性を伸ばす技術・家庭科の学習内容を、広く県民の皆様知らせるとともに、全県の技術・家庭科教員の指導力向上を目指す研修の場とする。

Ⅱ 会場について

湘南工科大学

〒251-8511

神奈川県藤沢市辻堂西海岸一丁目 1 番 25 号

鉄 道 JR 東海道線「辻堂駅」南口 徒歩 15 分

バ ス 「浜見山」「浜見山降車場」 徒歩 3 分

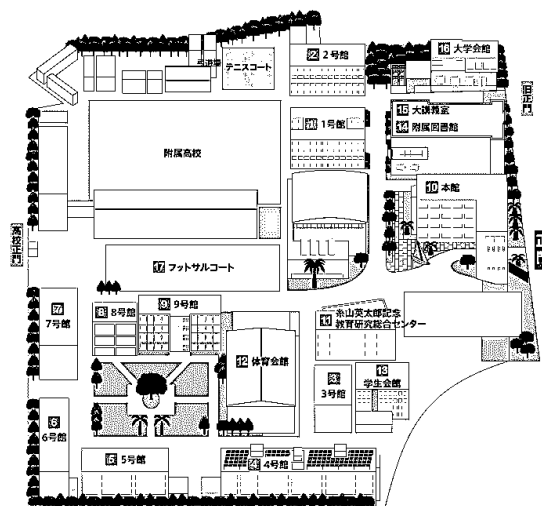
電 話 大学への電話でのお問合せはおやめください

会場周辺地図



※Google マップより引用

校舎構内図



Ⅲ 各部門の案内

第25回全国中学生ものづくり教育フェア in かながわは、全部門集合型開催となり3年目の大会となります。昨年度に引き続き、技術や生活の営みに係る見方・考え方を働かせる者同士が一同に会し、互いの製作活動にかける思いを認め合いながら競技を行う、本大会本来の運営方法により実施いたします。なお、県大会の順位（成績）によって全国大会等の上位大会進出が決定しますが、ルールは県大会と上位大会で大きく異なる場合があります。それでは、今年度の各部門の競技を紹介します。

	部 門 名	部 門 概 要	担当事務局
1	生徒作品コンクール	作品コンクールは、「Ⅰ 授業内製作部門」と「Ⅱ 自主製作作品部門」の2部門に分かれています。授業内製作部門には、総合的な学習の時間や放課後活動等の作品は含みません。自主製作作品部門は、長期休業・放課後活動等において、技術・家庭科で学んだ知識や技術を発揮して創造・製作した作品です。技術分野・家庭分野、Ⅰ部門・Ⅱ部門あわせて計6点を全国大会へ出品する予定です。	藤沢市立藤ヶ岡中学校 教諭 石井美咲 (書記) 0466-26-5197
2	木工チャレンジコンテスト	木材を使って課題に則ったオリジナル木工製品の製作とプレゼンテーションを行う競技です。上位大会進出者は希望する選手のなかから選考します。今年度から本県独自開催の製図・設計図のコンテストも行われます。詳しくは大会要項を御確認ください。	横浜市立舞岡中学校 教諭 向井大貴 (書記) 045-822-2722
3	「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール	オリジナルアイデアバッグの製作と作品発表の競技です。上位2名は関東甲信越地区大会に出品され、そのなかの上位に選ばれると全国大会に出場します。	相模原市立東林中学校 教諭 小林由佳 (会計) 042-749-1175
4	「あなたのためのおべんとう」コンクール	オリジナルのおべんとうづくりとプレゼンテーションの競技です。優勝チームは全国大会書類選考に推薦され、審査の結果により全国大会出場が決まります。	横浜市立上菅田中学校 教諭 笠井健太 (家庭部長) 045-381-7161
5	創造アイデアロボットコンテスト	競技は、全国大会に準ずる「基礎部門」「計測・制御部門」「応用・発展部門」「映像部門」の4つの部門と本県独自の「入門部門」に分かれています。それぞれの規格や課題に対応するロボットを製作し、そのロボット同士で対戦する競技です。それぞれの部門（入門部門を除く）から3チームが関東甲信越地区大会に進み、上位の成績を残すと全国大会に出場します。	茅ヶ崎市立松浪中学校 教諭 坪田 柁人 (技術部長) 0467-85-1127
6	プログラミングコンテスト体験コーナー	生活や社会における問題を「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決ができる」ことを目的とし、プログラミングの創造力、論理的な思考力を競います。第25回全国中学生創造ものづくり教育フェア in かながわでは、毎日パソコン入力コンクール事務局の御協力のもと、「体験コーナー」を実施します。	川崎市立南菅中学校 教諭 深川 紗弥 (書記) 044-944-5307

IV 参加日程・準備日程

○ 令和7年度 フェア運営担当地区……………中地区

平塚市	中郡大磯町	中郡二宮町	伊勢原市	秦野市
-----	-------	-------	------	-----

○ 令和7年度 参加応募書提出期日（参加申込締切）……2025年9月4日(木)

○ 県技家研合同委員の役割

- 1 フェア委員は、同地区の研究委員、広報委員と連携し、合同委員会で伝達された大会情報を各地区に周知し、参加者の募集に努めてください。
- 2 特に中地区のフェア委員は、青柳副部長と連携し、中地区の技術・家庭科職員が協力役員としてフェア運営委員会（10月17日(金)PM）に参加されますので、事前に伝達すべきことがあれば周知徹底方よろしくお願いいたします。
- 3 運営要項が確定すると、各地区に事前の準備をお願いすることが明らかになってくるので、御準備のほどよろしくお願いいたします。
- 4 運営委員として前日及び当日は割り振られた部門における御協力をお願いいたします。

○ 中地区技術・家庭科職員の役割

- 1 協力役員としてフェア運営委員会（10月17日(金)1PM）に参加して、事前の準備や前日準備、当日の大会運営に御協力をお願いいたします。

	参 加 者	中 地 区 (協力役員)	フェア・合同委員 (運営委員)	フェア事務局員 (運営役員)
合同委員会(1) 6 / 10 (火)			各地区に伝達	募集要項提案(1) (概案のみ)
合同委員会(2) 7 / 3 (木)	参加申込締切 9 / 4 (金)		各地区に伝達	募集要項提案(2) (確定版)
合同委員会(3) 9 / 5 (金)			中地区に伝達	運営要項提案(1) (検討版)
フェア運営委 10 / 17 (金)		フェア準備 (地区における)	フェア準備 (地区における)	運営要項提案(2) (確定版)
前日準備 10 / 31 (金)		フェア準備 (会場における)	フェア準備 (会場における)	大会プログラム 編集・発行
当 日 11 / 1 (土)	参加・観戦・体験	協力役員	運営委員	運営役員

V 生徒作品コンクール

1. 目的

全国の中学生在が、工夫創造して製作した作品を展示し、生徒相互の「ものづくり」への意識を高揚するとともに、製作における技能の向上を目指す。

2. 申し込み期日

2025年(令和7年)9月4日(木) 必着

3. 作品部門

【Ⅰ部門 授業内製作作品】

技術分野・家庭分野ともに、総製作時間数(設計・製作を含む)の内、主に教科の授業中に創造製作・制作した作品(総合的な学習の時間、放課後の活動、部活動、休み時間等は、教科の授業中の製作活動とみなさない)。

作品事例:本棚、QRコードを利用した模造紙作品、生物レポート、リメイク浴衣、クラッチバッグなど

【Ⅱ部門 自主製作作品】

技術分野・家庭分野ともに、技術・家庭で学習した知識や技術を活かし、製作した創造作品で、Ⅰ部門(授業内製作作品)に該当しない作品(総合的な学習の時間、長期休業や放課後の活動、休み時間等で製作したもの)。

※上位6作品は全国大会に進出する。

4. 出品点数

(1)技術・家庭分野、Ⅰ部門・Ⅱ部門合わせて各校4点までの出品とする。

(2)2人以上で製作した作品はⅡ部門のみの出展とする。また、技術分野1作品、家庭分野1作品までとする。

5. 出品作品の条件

(1)大きさは、縦+横+高さ=160cm以下とする。

(2)重量は25kg以下とする。

(3)Ⅰ部門は、製作費 5,000 円以下とする。

(4)家庭分野の衣類に関しても、1着の重さは作品規定を超えてはならない。

(5)規格外の作品は審査の対象外とする。

(6)知的財産権(著作権、商標権など)を遵守する観点から、キャラクター入りの作品は審査の対象外とする。

6. 審査基準

(1)基本的性格

技術・家庭科の教科目標である、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、新しいアイディアに優れるとともに、その製作過程において、優れた技能を発揮した作品に対して授与する。

(2)部門別審査基準

Ⅰ部門:問題解決の過程を重視する。

Ⅱ部門:創造性や技能(正確性)を重視する。

7. 応募資格

(1)日本国内の中学校に、令和7年度在学している生徒が製作した作品であること。

(2)入賞した作品は全国フェアへの出品があるため、それを保護者及び学校責任者が承諾していること。

8. 提出書類

- (1)応諾書
- (2)審査資料
- (3)作品コンクール搬入出調査票(両面印刷)
- (4)作品票(発送箱に貼付)
- (5)作品返却用の宅配便着払伝票
- (6)写真ファイル (作品全体 1 枚とアピールできるポイント 2 枚の計 3 枚)

9. 提出方法

【書類について】

- (1)応諾書・審査資料は県技家研 Web からダウンロードする。(全日中 Web からダウンロードすることも可[URL:
<https://gikaken.com/>])
- (2)作品票・作品コンクール搬入出調査票は、県技家研 Web からでないとダウンロードすることができません。
- (3)応諾書・審査資料・作品コンクール搬入出調査票の原本を藤沢市立藤ヶ岡中学校 石井宛に郵送する。
- (4)写真ファイルは電子メールにて、藤沢市立藤ヶ岡中学校 石井宛に提出する。

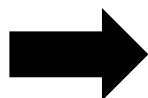
【作品について】

- (1)令和 7 年 9 月中に、茅ヶ崎市立松浪中学校 坪田教諭宛に郵送、又は持参して提出する。

10. その他

- (1)応諾書と作品申込書に記載されている生徒名が一致しないなどの書類の不備があった場合、手続きが間に合わず作品を出展できない場合があります。書類提出前に管理職や保護者の方に確認をお願いします。
- (2)写真データなどの審査資料が整っていない場合、審査に影響する場合があります。
- (3)結果集約後、入賞作品の申込責任者には、当日電話連絡にて結果を報告します。
- (4)入賞作品も一度返却します。

作品提出先



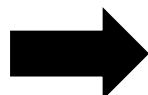
【作品提出先】

〒253-0022

茅ヶ崎市松浪二丁目 6 番 47 号

神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会事務局
技術部長 坪田 柁人(茅ヶ崎市立松浪中学校 教諭)

書類提出先



【問合せ・書類提出先】

〒251-0004

藤沢市藤が岡3丁目18-1

神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会事務局
書記 石井 美咲(藤沢市立藤ヶ岡中学校 教諭)

メール:ishii-mi@fujisawa-kng.ed.jp

電話:0466-26-5197

VI 木エチャレンジコンテスト

1 目 的

- (1) 中学生による、木が中心のものづくりの技能、技術を競う大会を設け、中学校技術・家庭科で学習したものづくりの技術・技能を発揮する場とする。
- (2) ものづくり学習、問題解決学習への意欲や希望、そして創造の夢を与え、中学生のものづくり交流の場とする。
- (3) プレゼンテーション能力の向上を図り、ものづくりの技能のみならず自分の考えを分かりやすく表現でき、広く社会に関われる人材を育成する。

2 in かながわについて

学習指導要領の変更により、現状の授業では例年通りのコンテストの開催は困難となってきました。そこで神奈川県技術・家庭科研究会として、独自の開催をいたします。

I 生活・社会の問題を解決する設計・製図

生活・社会の問題を解決するために行った、設計や製図を対象に競う部門です。
授業内作品、授業外作品の中から表彰を行います。

【A 紙による設計・製図部門】

□紙による設計・製図したものが対象となる部門です。

□製図用紙は授業で使われているもの、市販されているものなど用紙の指定はありません。

□製図方法は学習指導要領で示されている「第三角法による正投影図」「等角図」を主とし、サイズなどが分かるようにしてください。また、設計製図のため木材以外の材料を使用するものでも構いません。

【B デジタルによる設計・製図部門】

□CADなどのコンピュータを用い、3次元の設計を行ったモノなどの製図（設計）が対象となる部門です。

□製図（設計）方法は自由としますが、作品の特徴が分かる画像データを印刷、使用します。

□CAD以外にも3Dプリンター作品など、デジタルで設計したものが対象となります。

【A B 共通】

□1人1作品、各部門各校3作品まで。

□提出様式は次ページ【図1】のように統一します。

□A3用紙での作品提出をお願いします。

□郵送時は2つ折り。参加応募書が1人につき1枚必要となります。

□1人が複数部門に参加することは可能です。

参加応募書はメールにてデータを送信します。

参加する旨を記載し、担当者までメールをお願いします。

【図 1】

授業内	
製図画像・図面・写真 (枚数自由)	作品名 作品説明 ・問題、解決内容 ・特徴 ・使用用途 ・利用方法 ・製作した目的など
○○市立○○中学校第○学年 氏名 ○○ ○○	

Ⅱ 木工チャレンジコンテスト部門

□今年度は例年と同じ形式で実施します。事前に全国大会に推薦を希望するかを確認し、全国大会を希望しない場合は上位大会には進出しません。

3 木工チャレンジコンテスト部門 全国予選について

(1) テーマ 「生活の問題を木工の技術により解決できる収納棚」の構想を立てる。

(2) 課題について

〈課題〉 上記のテーマについて設計し、3時間30分以内で製作できるものとする。

パイン板材4枚のうち(寸法 t15×W150×L600)2枚、(寸法 t15×W30×L600)2枚とする。これら以外は、接合金具(釘、木ねじ、ボルトナット、ロックダウン金具、補強金具、蝶番)及び、取手、フック、マグネットキャッチ、補助に使用するプラスチック材のみ使用可とする。

※材料取りをする際に、縦引きによる切断は含んでも含まなくてもよい。

※くぎ(32mm・38mm等)・酢酸ビニル樹脂系接着剤を使用する。

※製作工程において、さしがねによるけがき、両刃のこぎりによる切断、くぎ打ちによる組み立て、直角定規等による検査、紙やすりによる仕上げ作業を含むこと。平かんによる作業は含まなくてもよい。

※機械による部品加工(電動糸鋸盤、ボール盤、ベルトサンダー)は使用しても良いが、可能な限り手作業を推奨する。

(3) 応募について

①〈課題〉の条件を満たす作品の構想図(A4のケント紙を使用)を担当者宛てにPDFファイルで送信

②メール送信後、参加応諾書をメールで受け取り、出場校で印刷し、簡易書留で郵送(費用は各校負担)。

・①②どちらも令和7年9月4日(木曜日)までに競技担当者まで提出をお願いします。

・①の送信及び②の送付が完了しましたら、必ず電話連絡による確認をしてください。

・審査の結果、県大会出場が決定した場合、大会事務局より令和7年9月19日(金曜日)までに、競技に係る連絡をいたします。その際に全国大会への推薦を希望するかを改めて確認さ

せて頂きます。

- ・なお、県大会の出場定員は最大6名(予定)で、原則として出場できるのは各学校3名までとします。ただし、予選の応募人数には規定はありません。

(4) 審査について

- ①課題である「生活の問題を木工の技術により解決できる収納棚」を決められた材料で、日頃の授業で身につけた問題解決する力を発揮し、構想が自らの生活上の問題点の解決を図るものになっている。
 - ②近年問題となっている環境問題の観点から材料を余すことなく有効に使われており、環境への配慮が来ている。
- ・上記2点を踏まえ、製作構想が来ていることを重点とする。

4 木工チャレンジコンテスト部門 in かながわについて

(1) テーマ 「生活の問題を木工の技術により解決できる収納棚」

(2) 競技内容

- ①予選で設計した製作図に示された作品の製作。
 - ②製作品の構想シートに基づき、製作した作品についてプレゼンテーションを行う。
 - ③in かながわにおいて全国大会出場の希望者は、審査により全国大会1次審査へ推薦を行う。
- ※審査の結果、神奈川県から推薦が出ない可能性もあります。

(3) 参加資格 次の①及び②を満たす者。

- ①神奈川県内の国公立私立中学校に在籍する中学校1～3年生で、校長が参加を認めた者。
- ②全国大会への出場を希望し、上位に入賞した選手1名は全国大会1次審査課題に基づき、11月中旬までに、製作品、製作動画、構想図、問題解決レポート、材料取り図、工程表及び応募書を運営事務局に提出する。(送料各校負担)

※詳細は全日中フェア HP (<https://ajgika.ne.jp/fair.html>) を参照。

このため、令和8年1月31日(土曜日)、2月1日(日曜日)に開催(予定)される第25回全国中学生創造ものづくり教育フェアの出品審査へ参加することが可能である者が全国大会出場を希望することができる。

(4) 木工チャレンジコンテスト部門の日程(案)

時間	概要	場所
8:00～8:20	受付	糸山英太郎記念教育研究センター入口
	材料購入	実験実習棟 3階 実習室前
8:30～9:20	全体開会式	8-301 カンファレンスホール
	準備・事前説明	実験実習棟 3階 実習室
9:20～11:20	前半競技	実験実習棟 3階 実習室
11:20～12:00	昼食・休憩	実験実習棟 3階 講義室
12:00～13:30	後半競技	実験実習棟 3階 実習室
	※後半競技に関しては出場者・顧問の意思を確認した上で短縮する可能性がある。	
13:40～14:00	プレゼンテーション	実験実習棟 3階 講義室

14:00～14:15	片付け	実験実習棟 3階 実習室
14:15～14:30	部門別閉会式	実験実習棟 3階 講義室

(5) 表彰（予定）

I 生活・社会の問題を解決する設計・製図

【A 紙による設計製図部門】

- ・神奈川県公立中学校技術・家庭科研究部会部会長賞（1～3名）

【B デジタルによる設計製図部門】

- ・神奈川県公立中学校技術・家庭科研究部会部会長賞（1～3名）

II 木工チャレンジコンテスト

【C 木工チャレンジコンテスト部門】

- ・神奈川県知事賞（1位）
- ・神奈川県教育長賞（2位）
- ・神奈川県中学校文化連盟会長賞（3～8位）

（出場者数により賞の内容、数が変わる可能性がありますので予めご了承ください。）

(6) 評価の観点

I 生活・社会の問題を解決する設計・製図 評価の観点は、以下のA～Dの4項目とする。

- A 適切な図法を用いて、製作に必要な図をかくことが出来ているか。
- B 課題の解決策を、条件を踏まえて構想し、製作図等に表す力が身についているか。
- C 課題の設定や材料の成形等に関する新しい発想があるか。
- D 使用者の安全や耐久性などに配慮して設計・製作されているか。

以上を総合的に判断した上で入賞者を決定することとする。

II 木工チャレンジコンテスト部門 評価の観点は、以下のA～Eの5項目とする。

A 創意工夫…作品に創意工夫があるか。

- (1) 作品に形態、構造、機能などの点で創意工夫があるか。
- (2) 与えられた材料を過不足なく有効、合理的に使用しているか。
- (3) 与えられた条件を満たした創意工夫があるか。

B 製作態度…安全に留意して合理的に作業を進めているか。

- (1) 安全に留意して作業を進めているか。
- (2) 工具を合理的で丁寧に扱っているか。
- (3) 合理的な手順で作業を進めているか。

- C 製作技能…材料の固定、工具の持ち方、作業身体動作等、工具の合理的な使用に関する知識と技能を修得しているか。
- (1) のこぎりの使用に関する知識と技能を修得しているか。
 - (2) げんのうの使用に関する知識と技能を修得しているか。
 - (3) のみの使用に関する知識と技能を習得しているか。
 - (4) その他の工具の使用に関する知識と技能を修得しているか。
- D 作品の精度…作品の仕上がり精度・材料の使用法がよいか。
- (1) 部材の寸法が正しく、接合面に目違いがないか。
 - (2) 作品の角度は正しいか。
 - (3) 表面がきれいに仕上がっているか。
(逆目ぼれ、端欠け、かんなまくら、耳立ち、くぎの突出、げんのうによる打撃痕等)
 - (4) 各部材の合理的な使用がなされているか。(木目による繊維方向等)
- E プレゼンテーションの内容…作品に対して的確なプレゼンテーションが出来ているか。
- (1) 『作品を作ろうとしたきっかけ』『使用法とシステム』『工夫した点』『頑張った点』がプレゼンに組み込まれているか。
 - (2) 伝えたい相手に伝わりやすい具体的なプレゼンが出来たか。

(7)審査員（予定）

検討中

(8)運営役員

運営責任者

荒船 友樹（神奈川県技・家研 副部会長）

飯島 敏明（神奈川県技・家研 副部会長）

向井 大貴（神奈川県技・家研 書記）

神奈川県公立中学校教育研究会技術・家庭科研究部会 スタッフ

4 参加費用

- ①予選 製作材料費、郵送料は各校負担とする。
- ②inかながわ 製作材料費（2300円（予定））を現地で集金する。
交通費等は各校負担とする。
- ③全国大会 大会参加費未定、振込手数料は各校負担とする。

5 応募書類等の日程について

日 程	種 類	部 門	提 出 物	備 考
令和7年9月4日（木）まで	Ⅰ 生活・社会の問題を解決するモノ作り設計製図	A 紙による設計製図部門	作品（A3） ○製図用紙のサイズは指定ありません。図1を参考にA3用紙にて作品提出をお願いします。 （掲示する際にテープ跡などが残る可能性があります。事前にコピーを取るなど、各校で対応をお願いします。コピーを提出することも可です。）	各校最大3名まで <u>（授業内外含む）</u>
		B デジタルによる設計製図部門	○必ず授業内作品か授業外作品かわかるように表記してください。 大会参加応諾書 ○大会参加応諾書をメールにて取り寄せてください。 返送用レターパック（赤） 2点と<u>（返送用レターパックに郵送先の住所と学校名を記入したもの）</u>を入れ、簡易書留にて郵送	
	Ⅱ 木工チャレンジコンテスト	C 木工チャレンジコンテスト部門	構想図（A4 ケント紙） ○県大会出場の場合はこの構想図が貼りだされます。	PDF データをメールで送信
			大会参加応諾書 ○PDF を受け取ったアドレスにデータを添付します。	申込先へ <u>簡易書留</u> で郵送
			③電話連絡にて受付	横浜市立舞岡中学（045-822-2722）

【早見表】

	提出物	提出手順	提出 〆切	当日	上位大会	授業 作品
A 紙の 製図	○A3 作品 ○参加応募書	①参加応募書をメールで取り寄せ ②作品、応募書、返送用レター パック（送付先記入済みのもの） を担当者まで郵送	全ての手 順を令和 7 年 9 月 4 日 （木）ま でに	展示	なし	可
B デジ タル設計	○返送用レター パック（赤）					
C 木工	○構想図 ○参加応募書	①構想図を PDF でメール送信 ②参加応募書を簡易書留で郵送 ③電話にて確認		参加が 必要	希望者 （全国）	

【競技担当者・申込書類提出先】

神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会事務局
 横浜市立舞岡中学校 教諭 向井 大貴（書記）
 〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町226番地
 電話 045-822-2722
 E-mail アドレス ta01-mukai@city.yokohama.lg.jp

木工チャレンジ Q&A

Q.選手のレベルが分かりません。出場させて良いものでしょうか。

A.最近では出場者も少なく全国大会出場希望もしなくて良いため、以前よりハードルは低くなっています。お気軽にお問い合わせください。

Q.提出書類がよくわかりません。

A.早見表や要項をよく読んでいただき、分からなければ担当事務局まで問い合わせください。

Q.どのような生徒が出場していますか。

A.男子生徒、女子生徒問わず参加しています。基本的には部活内でやっている生徒や、支援級の生徒なども出場しています。また、同会場ではロボコンや作品コンクールの展示などもあるため、引率してきた先生や保護者の方は自由に会場内を見学できます。

Q. I 生活・社会の問題を解決する設計・製図に郵送で複数人エントリーしますが、封筒はどのようにすれば良いのでしょうか。

A.各校封筒（返送用レターパックを含め）1枚にまとめていただいて結構です。

VII 豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール

1 目 的

- (1) 「ものづくり」を通して、知識や技能を習得し活用することにより、ものをつくることや活用の喜びを味わう機会とする。
- (2) 技術・家庭科で習得した知識や技能を生かした被服作品等の設計、製作を通して、ものをつくる喜びを味わう機会とする。
- (3) 自分や家族の生活をより豊かにするために、個性や工夫を生かした製作の目的を明確にすることにより、製作や活用の喜びを味わう機会とする。
- (4) 製作を通して、ものを大切に作る心や成就感、自分や家族の生活を豊かにすることの大切さを実感する機会とする。

2 競技内容

〈作品の条件〉 ※作品の条件は、全国大会要項に準ずる。

- (1) 競技の課題について
「バッグ（ショルダーバッグ、トートバッグ、リュックサックなど）」とする。
- (2) 使用する布について
 - ・バッグ本体の全部または、一部に、家庭にある自分または、家族の衣服を用いる。その他、衣服以外の布などを加えてもよい。
- (3) デザイン及び機能について
 - ・衣服の一部をそのままの形で1つ以上活用する。
(例：ポケットの形状やボタンをそのまま利用する など)
 - ・「バッグ」の口を閉じられるようにして、中身が出ない工夫をする。
- (4) 縫製について
 - ・入れるものに必要な強度が保たれるように、布目の方向や縫い目の大きさ及び縫い代の始末の仕方などを工夫する。
 - ・バッグのいずれかの部分にまつり縫いを取り入れる。
 - ・スナップは、必ず1つ以上付ける。
 - ・3時間程度で製作できる作品とする。
- (5) レポートについて
 - ・レポートには、「テーマ」、「構想」、「自分や家族の生活を豊かにする視点」、「私にとってのものづくりの視点」と「衣服の再利用の工夫（どの部分をどのように活用するか）」その理由を明記すること。また、まつり縫い・スナップを取り入れた部分を明記すること。（朱書きする）
 - ・解体前の全体像を、写真またはイラストで表す。
- (6) プレゼンテーションについて
県予選では、プレゼンテーションの審査は行いません。代表に選出され上位大会に進出した場合はプレゼンテーション審査が行われます。

(7) 評価項目及び評価の内容

評 価 項 目		評 価 の 内 容
レポ ー ト	テーマアイデア	・「自分や家族における課題」,「解決方法（衣服等の再利用を含む）」,「期待される効果」を具体的に記述しているか。
	作 業 手 順	・「製作工程」,「型紙の配置」,「まつり縫い・スナップを取り入れた部分」を具体的に記述しているか。
	ま と め 方	・作業工程全体からアイデアまで分かりやすく記入しているか。
	布 の 種 類	・作品に適した布地を使用しているか。
縫 製	仕上がりの美しさ	・作品の出来栄えはどうであるか。
	縫 い 代 の 幅 と 始 末 の 仕 方	・布やバッグの部位に応じて、適切な幅であるか、縫い代を適切に始末しているか。
	持ち手の丈夫さ	・持ち手にふさわしい強度があるか。
	まつり縫い	・まつり縫いが適切にできているか。
	ス ナ ッ プ 付 け	・スナップを適切に付けているか。
	ミ シ ン 縫 い	・バッグの部位に応じて、縫い目の大きさや強度が保たれる工夫をしているか。
衣服の再利用	デ ザ イ ン	・衣服の一部の利用は、テーマに応じたデザインになっているか。
	機 能 性	・衣服の一部の利用は、テーマに応じた機能を満たしているか。
	使用 者 へ の 配 慮	・使う人の立場に立った工夫がされているか。

3 予選会に必要な書類等について ⇒ 9月4日(木曜日)必着とします。

(1) 作品（バッグ）

- ・作品の梱包の見える位置に作品票を貼り,どの作品が誰のものか分かるように示してください。（作品票は、<https://gikaken.com/index.html> よりダウンロード）

(2) 作品返却用の宅配便着払伝票

- ・伝票記入後、作品提出の際に同封してください。

【作品提出先】

神奈川県公立中学校教育研究会技術・家庭科研究部会事務局
茅ヶ崎市立松浪中学校 教諭 坪 田 柁 人（技術部長）
☎253-0022 茅ヶ崎市松浪二丁目6番47号

(3) 参加応諾書・製作レポート ⇒簡易書留にて郵送してください。

- ・製作レポートは規定の用紙を用いることとし、必ず手書きをして、A3 カラー印刷で提出する。（<http://www.ajgika.ne.jp> よりダウンロード）

【競技担当者・申込書類提出先】

神奈川県公立中学校教育研究会技術・家庭科研究部会事務局
相模原市立東林中学校 教諭 小 林 由 佳（会 計）
☎252-0302 相模原市南区上鶴間8丁目21番1号
電 話 042-749-1175 ファクシミリ 042-741-7936

第 25 回 中学生創造ものづくり教育フェア
「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール
作品票

都道府県名 神奈川県	学 校 名	
作 品 名		

第 25 回 中学生創造ものづくり教育フェア
「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール
作品票

都道府県名 神奈川県	学 校 名	
作 品 名		

第 25 回 中学生創造ものづくり教育フェア
「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール
作品票

都道府県名 神奈川県	学 校 名	
作 品 名		

Ⅷ 「あなたのためのおべんとう」コンクール

1 目 的

- (1) 中学校技術・家庭科での学習内容を生かし、おべんとう作りを行う。その成果の発表を通して、知識や技能の向上を図りよりよい食生活を目指そうとする意欲を育てる。
- (2) 普段通りの日常生活（ケの日）の中で、食べてもらう相手のことを考えたおべんとう作りを通して、身近な人との関わり大切さや「食」の重要性を知る。
- (3) コンクールを通して、参加者が互いの工夫点や技能を学び合い、県内の中学生の交流の場とする。

2 競技内容

(1) 食 材

- ① 規定課題「魚を使った調理」を主菜とする。魚は、切り身やすり身、干物、缶詰、冷凍等でもかまわない。ただし、甲殻類（エビ、イカ、カニ）は、規定課題とはみなさない。
- ② おべんとうの対象者を具体的に設定し、年齢・性別をレポート用紙に明記する。
対象者にあった分量・材料・調理方法などを工夫をする。
- ③ おべんとうは、チームの人数分＋試食用1名分をつくる。
- ④ 材料費の目安は1人分1000円以内。（チームの人数分＋試食用1名分）×1000円（税込）
- ⑤ 競技当日の材料は、各自で用意する。
- ⑥ 調味料は全て、各自で準備する。
- ⑦ 各自で準備する調味料は、あらかじめ分量を量り小分けにしてきてよい。

(2) 参加人数

出場チームは1～2名で1チームとする。各校からの参加チーム数は、4チームまでとする。また、チーム構成メンバーが重複してのエントリーは認めない。

◇参加費 一人につき、**600円**（光熱費及び競技運営諸費用として）を大会当日にお釣りが発生しないように支払う。

◇競技について（作品の条件） 対象者を意識し、旬の食品や食事摂取基準等を意識し、参加人数に応じて必要な分量を調理する。

(3) 競技時間

- ①調理の下準備・調理・片付けを全て含めて、100分以内で行い、ふたをしめて終了とする。
- ②洗米吸水、乾物の処理も（炊飯開始も可能）競技時間に行う。
- ③プレゼンテーションは1チーム1分の時間を厳守する。

(4) 用 具

- ①弁当箱、弁当小物は各自で選び、持参する。⇒形、色、サイズ等は自由
- ②特別な用具等は、各自持参しても良い。ただし、包丁は安全面を考え、持ち込みは無しとして、会場で準備したものを使用する。

(5) 服 装

エプロン、三角巾、マスクは各自持参とする。

(6) 申 込

申込方法所定の用紙に、必要事項を記入し、学校長の承認を経て申し込む。

〈第一次審査に必要な書類について〉 **3 ものづくりフェア当日までの流れ** を参照

(7) 審査・表彰

〈第1次審査〉書類審査（選考結果は大会事務局より連絡をする）

〈第2次審査〉実際に調理競技を行う。提出されたレポートをもとに選考し、上位**6グループ**は実際の大会で競技を行う（上位**6グループ**すべてに賞状が出ます）。神奈川県大会を1位通過すると、そのまま全国審査へ進む。全国審査を通過すると、全国大会への参加資格を得る。

(8) 審査項目

計画	食 材 ・ 献 立	食材・献立が対象者にふさわしいか。
	栄養バランス	対象者の食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすに準じ、栄養バランスがとれているか。
	規 定 課 題	「魚」を主菜として効果的に調理し、おべんとうに適した献立になっているか。
技能	手 順	調理の手順や作業は能率的に行われているか。
	調 理 方 法	おべんとうに適した調理方法が工夫されているか。
	盛 り つ け	彩りや配置を工夫して盛りつけているか。
	味	個々の食材を生かし、おべんとうに適した味付けとなっているか。
	安全な作業	用具を適切に扱い、安全に配慮して作業を行っているか。
	環境への配慮	環境に配慮して調理を行っているか。(食材、水、熱源、器、洗剤など)
表現	完 成	時間内に完成することができたか。(後片付けも含めて 100 分間)
	テ ー マ	テーマに沿う適切な発表であり、課題設定は適切であるか
	組 み 立 て	食べてもらう人のことを考えたおべんとうであること。 食の重要性が理解されていることがわかる内容であるか。

3 ものづくりフェア当日までの流れ

月 日	内 容	備 考
5月～9月	◎広報活動	・各市町村に通知。
9月4日(木)までに	①レポートデータ(PDF版)を送信 ②レポート15部(片面カラー印刷)を郵送	①電子メールにて、添付送信する。 ②レターパックで郵送、4日必着。 ・レポートは http://ajgika.ne.jp/ よりダウンロード(全国HP)
9月16日以降	◎レポート審査結果の通知を受け取る	・担当教員宛に送信する。(事務局より)
9月26日(金)までに 必着	神奈川県予選に出場が決定後 ①レポート(片面カラー印刷)15部 ②参加応募書 ③メール連絡を入れる	①②レターパックで郵送、必着。 ③電子メールにて、送付したことの連絡も入れる。参加応募書は http://ajgika.ne.jp/ よりダウンロード(全国HP)
10月初旬までに	・担当者へメール返信	・事前に連絡のあった事項について担当者へメール返信する。
11月1日(土)	●コンクール(競技審査)	・県予選順位を確定。

【競技担当者・申込書類提出先】

神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会事務局
 横浜市立上菅田中学校 教諭 笠井 健太(家庭部長)
 ☎240-0051 横浜市保土ケ谷区上菅田町780
 電 話 045-381-7161 ファクシミリ 045-381-7424
 E-mail アドレス ke05-kasai@city.yokohama.lg.jp

IX 創造アイデアロボットコンテスト

1 目的

- (1) 中学校技術・家庭科で学習した知識や技能を生かし、ロボットの設計・製作を行い、その成果の発表の場とするとともに、知識や技能の向上を図る。
- (2) コンテストは一つの授業の場として、参加者が互いに工夫点や機能性、構造などを学びあえるようにする。また、ものづくりに取り組んできた全国の中学生の交流の場とし、得点至上主義に走らず、発想や製作技能・努力を評価し合う。

2 競技内容

(1) 基礎部門：積み上げ達人

中学校技術・家庭科の授業の基礎的・基本的な知識や技能で製作できるロボットの部門。制限時間90秒で、コートに転がした支援物資アイテム16個を、コート3箇所のスポット上に積みあげる競技。中学3年間で複数回参加が可能。

(2) 計測・制御部門：「Mission is “整地！2025” by プログラムカー」

中学校技術・家庭科の授業の基礎的・基本的な知識や技能で参加できるロボットとプログラミングの部門。制限時間90秒で、コートに撒かれたアイテム（ペットボトルキャップ25個、スポンジアイテム4個）を、ゴールエリアの決められた場所（スポット）に入れる競技。中学3年間で複数回参加が可能。

(3) 応用・発展部門：「ジ・メッセージタワー2」

中学校技術・家庭科で学んだ知識や技能を最大限に発揮して製作されたロボットの部門。時間内に、ロボットを使ってコート中央の資材パレットにあるアイテムを、自陣エリアの建設予定エリアに積み上げる競技。中学3年間で複数回参加が可能。

(4) 動画部門

ダンスや機能など、対戦競技型にとらわれないオリジナルロボットのパフォーマンスを発表する。

(5) 入門部門：「Remove Quickly」

技術分野の授業中で製作したロボや学習した内容を生かし、本大会にはじめての参加をすることを想定した部門。制限時間60秒で、コートに転がしたアイテム（がれき）を、自陣コートから撤去するタイムアタック形式の競技。過去2年間に本大会ロボコンにエントリー経験がないことを参加条件とする。

*入門部門は神奈川県独自の部門のため、上位大会への進出はありません。

*部門(1)～(4)の競技詳細は創造アイデアロボットコンテスト全国中学生大会のHPをご確認ください。

*部門(1)～(3)の参加数が2校以内かつ3チーム以内の場合は、各顧問の先生方と相談の上、当日競技を行わずに動画を事務局および審査員で確認して関東大会への参加とする場合がございます。

3 表彰・審査

各部門の競技時間をずらし、計9名の審査員で全部門の審査を行う。

- (1) 県知事賞 *全部門から1チーム
 - (2) 県教育長賞 *全部門から1チーム
 - (3) 湘南工科大学長賞 *全部門から1チーム
 - (4) 中文連会長賞※ *基礎、計測・制御、応用・発展部門から各3チーム、動画部門1チーム
 - (5) 県技家研会長賞（得点賞）*基礎、計測・制御、応用・発展部門から各3チーム、動画部門4チーム
- ※基礎、計測・制御、応用・発展部門は競技得点とは別に、審査員による本大会の目的に照らし全参加チームを対象に選考を行い、上位大会に推薦を行う。
- （各部門の推薦できる上限は基礎、計測・制御、応用・発展部門は3チーム、動画部門は5チーム）

4 参加費

参加費は徴収しません。

ただし、大会当日のコートやアイテムは、参加校のものを使用させていただく予定です。ご了承ください。

5 申し込みについて

- ・参加一覧表と応諾書（県技・家研 HP <https://www.gikaken.com/> より）に必要事項を記入の上、
参加一覧表はExel ファイルをメールにて、応諾書の原本を郵送にて下記提出先へお申し込みください。
- ・9月4日（木）必着

6 その他

- ・当日の運営・審判などについては、申し込みいただいた学校に連絡いたします。
（各校顧問の先生方に審判をお願いします）
- ・同一生徒が複数部門にエントリーすることは認められません。
- ・上位大会への推薦は該当チームが県大会にエントリーした時点でのメンバーに与えられるものであり、不測の事態を除き上位大会進出時のメンバー変更は認められないものとする。また、変更する際は事前に事務局担当者までご連絡ください。

【競技担当者・申込書類提出先】

神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会事務局
茅ヶ崎市立松浪中学校 教諭 坪田 柁人 （技術部長）
〒253-0022 茅ヶ崎市松浪2丁目6番47号
電話 0467-85-1127 FAX 0467-85-1128
E-mail matsunami-j@chigasaki.ed.jp

◇この資料についてのお問合せは次に示す連絡先までお願いいたします◇
神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会事務局
川崎市立南大師中学校 教諭 矢坂 健太郎（フェア事務局長）
〒210-0828 川崎市川崎区四谷上町 24 番地の 1
電 話 044-266-2125 ファクシミリ 044-287-4071
E-mail アドレス t2005745@kawasaki-edu.ed.jp